

International GAP（国際的適正農業規範）対応の 食料管理専門職業人の養成

ニュースレター No.7 (2014.01.07)

発行：GAP 事業推進室 TEL/FAX：0985-58-7165 E-mail：muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp URL：http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/

附属農場が GLOBALG.A.P. 認証を取得



認証書を囲む農場スタッフ

本学農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド（農場）が2013年11月21日に対象品目を「RICE」としてGLOBALG.A.P. 認証を取得しました。これは、JGAP 認証に引き続き、大学農場としては、日本初。

現在、附属農場では、JGAP 認証（青果物 2010、穀物 2012）と今回取得したGLOBALG.A.P. 認証の計3つの認証を取得しています。これらの認証は、今後、学生教育に活かされます。

GLOBALG.A.P. 認証を取得した水田とは

穀物に対するGLOBALG.A.P.の認証範囲は、栽培から乾燥まで。ここでは、これらの作業風景を紹介します。

田植え～栽培管理

学生実習では、機械での移植と手による移植を行います。機械作業は、担当教員および農場職員の指導の下、学生自らが機械を操作。栽培管理では、スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の除去や除草作業を通し、雑草や害虫被害の知識を得ます。

【写真① 学生実習によるスクミリングガイの除去と補植作業風景】

収穫～乾燥

コンバイン使用時には、作業者の安全を考慮して、ヘルメットを着用。学生実習では、手刈りによる収穫も行われるため、鎌で手を傷つけないように指導を行っています。万が一、事故が起こった時のために農場職員は、止血方法などの応急手当の講習を受講しています。

【写真② 収穫風景】

収穫物は、グレンコンテナやコンバイン用粉袋で乾燥施設へ運搬されます。グレンコンテナは、上部が開放されているため、異物混入防止を目的として、ブルーシートをかぶせます。

【写真③ グレンコンテナの様子】

乾燥施設では、グレンコンテナから乾燥機への粉の移動にバネコンベアを使用。このバネコンベア内部の異物が混入するリスクを軽減するために、バネコンベア内を通った粉のうち、初めの5kg程度は、破棄しています。乾燥機も常に清潔に保てるよう、定期的に清掃を行っています。

危険箇所を管理

イノシシなどの獣害対策として、電気柵を使用。また、傾斜のある畦や幅の狭い道など、農業機械での移動に注意が必要な箇所も点在。これらについて、リスクを検討するとともに「危険箇所map」や「リスク対策表」を作成しています。

【写真④ 危険箇所map（東水田）】



GLOBALG.A.P. TOUR 2013 JAPAN で報告

GLOBALG.A.P. TOUR 2013 JAPAN が、11月29日、30日の2日間、宮崎市コンベンションセンターで開催されました。GLOBALG.A.P. TOUR とは、GLOBALG.A.P. 事務局が関係数カ国を訪問し、催している小規模な講演会で、今回、日本で初めて開催。本学もこれを後援し、菅沼龍夫学長が来賓挨拶を行いました。GLOBALG.A.P. 事務局（ドイツ）の担当者やオランダ王国大使館の農務参事官、タイ王国カセサート大学の教員らも参加し、国際色豊かな講演会となりました。その中で、木下 GAP 事業推進室長が、本学農学部の GAP 教育プログラムについて、事例報告を行いました。

また、GAP 事業推進室として、展示ブースを出展。ブースでは、「GAP 教育プログラムを履修した学生を雇用したい」「社会人向けの研修などを行って欲しい」「大学でこのような取り組みを行っているのは、先進的で今後が楽しみです」など多くの質問や意見がありました。



挨拶をする菅沼学長



事例報告をする木下 GAP 事業推進室長



展示ブースの様子

今年も海外で農業体験

「グローバルアグリ体験講座」が、9月24日から10月3日の日程で行われました。今年度も昨年度と同様に10名の学生がタイ王国へ行き、カセサート大学などで ThaiGAP や QGAP、タイの農業などについて学びました。帰国後、参加学生らによる

報告会が行われました。報告内容は「タイの気候と農業」「GAP（適正農業規範について）」などでした。参加学生たちからは、「実際に行くことにより、日本との違いが更に理解できた」などの感想があり、とても良い経験になったようです。



グローバルアグリ体験講座 圃場見学の様子

地域住民にも GAP を紹介

附属農場と牧場の地域住民への開放事業が、それぞれ11月16日と12月14日に行われました。GAP 事業推進室は、この中でポスターの展示やチラシの配布などを行い、地域住民へ GAP を紹介。

今年度は、子ども向けのチラシも作成し、配付したところ、保護者が子どもへ読み聞かせるなどの光景が見られました。



子ども向けの GAP ちゃんチラシ

『International GAP 対応の食料管理専門職業人の養成』ニュースレターは、宮崎大学の人材養成の取り組みを広く紹介するために、農業法人や食品関連企業などの関係者に配信しています。

このニュースの配信を希望される方を募集中です。GAP 事業推進室までご連絡下さい。

【お問い合わせ】 G A P 事業推進室
〒889-2192
宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学農学部 N708

PHONE/FAX : 0985-58-7165
E-mail : muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp
URL : <http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/>

本教育プログラムを履修した学生に対する求人については、以下の URL をご覧ください。
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/employ/company>

※ 本教育プログラムは、農学部植物生産環境科学科にて実施しています。